OMC News 大阪ムービーサークル

ＯＭＣ事務局　〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
広報編集局　〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/

平成１６年１２月（2004年）No.４６８

年度賞を制定、新年例会で表彰

～最優秀作品には年度大賞を～

今年も残り少なくなりました。わがＯＭＣの例会もますます盛りあがり出席者数、作品出品数とも過去最高の記録を達成しそうな勢いで感謝感激です。これも毎年確実に齢を重ねているに拘わらず、益々お元気でビデオを楽しんでおられる会員諸氏が多いことの証であるとご同慶の至りであります。８ミリフィルム時代には、ＯＭＣには毎年、年度賞の制度があり作品づくりの励みにもなっていました。ところがトロフィーを貰っても粗大ゴミになるだけだという声や経費難のこともあり、ビデオ時代になってとりやめてしまった経緯がありました。

ＯＭＣには撮影会作品コンテストで表彰するほか、良い作品に対する表彰制度が無いのも淋しいし、表彰が今後良い作品づくりへの意欲につながるものと考え、復活させることにしました。但し、日本アマチュア映像作家連盟会員のようなベテラン会員は受賞対象から除外し、同会員で世話役さんには審査員という形で参加して頂きます。受賞対象は前年 12 月例会作品から同年 11 月例会作品の中より公平な採点により決定します。年度賞は３～５本で、その中から最優秀作品賞を年度大賞として決定します。

年度大賞を３回受賞した方は、次年度より審査員に推薦されます。表彰は、新年例会の席で行なわれます。さあ、初年度の年度賞、どなたが受賞されるでしょうか。あなたかも知れません。楽しみにしてください。

大阪ムービーサークル会長　合原一夫

１２例会のお知らせほか

今年最後の 12 月例会は 25 日（第４土曜日）18 時より、難波市民学習センター（JR 難波 OCAT ビル４階）にて開催します。どうぞお早めにお越しください。

■来期会費（8,000 円）会計へ納入お願いします。

■予告：新年例会は**１月１６日（第３日曜日）13時**より総会を兼ねて開催、夜は５階のスーパードライ難波で新年会：会費は 5,000 円です。当日無断で欠席された場合は、5,000 円いただく場合があります。出欠を同封のハガキにて**１月１０日**（必着）で投函してください。

全国コン入賞
おめでとうございます

■第4回彩の国埼玉全国映像コンテスト
入選「同行二人」　安居利次さん

■とびうお国民文化祭　まどか映像祭
国民文化祭実行委員会会長賞
「妻」　安居利次さん
大野城市長賞　「ネパール民謡レッサムフィリリに寄せて」　西村光雄さん

☆

■コンテスト募集がきています
第４回なごや・まちコミ映像祭
・応募締切：H17 年 2 月 25 日・7 分以内
・テーマ：まちづくり、人とひとを結ぶコミュニケーションを創る趣旨に沿うもの
・グランプリ：30 万円優秀賞各 15 万円他
応募希望者は合原会長までどうぞ。

☆

■撮影会のよき情報があったら教えてください。今年も 3 ～ 5 月の土日に計画していますが、情報をぜひよろしくお願いします。

■住所録訂正等のお願い
1.宮崎　紀代子さん
〒 584-0078　富田林市加太 2 丁目 6-8-201
TEL：072-367-2459　km807jp@ybb.ne.jp
2.吉岡　貞夫さん
メールアドレス：syosioka@sea.plala.or.jp

１１月例会のレポート

秋たけなわの 11 月になりましたが、今年は朝の冷え込みが今ひとつなのか、紅葉が例年より美しくないという声がきかれます。やはり紅葉は紅くなってこそ絵になるもので、撮影に行った方は少々物足りなかったことでしょう。さて、例会もこのところ出席者も出品数も増え、司会者やデッキ係は時間を気にしながらの大忙しとなってきました。今月の司会は吉岡さん、書記、安居さん、デッキ係は河合さんと岡本さん、受付兼照明係は宮崎さんと森口さんの担当で会を進行させました。また八尾市にお住まいの寺田安紀子さんという方が、会場のチラシを見てぜひ勉強したいと見学にお見えになりました。ご入会を期待しています。

◆出席者：有村、今井、江村、奥、岡本、上総、紙本、河合、金子、合原、黒田、進藤、関、那須、西村、秦、華岡、前田、増池、宮崎、森、森田、森口、安居、山本、吉岡、渡辺、寺田（見学者）の皆さん合計 28 名、出品作品は 19 本でした。

■上映作品（今月の講評は安居世話役です。）

1．浜寺公園ばら庭園
6分45秒　増池　茂さん

浜寺公園は松林が広くていい環境です。秋の一日ゆっくりとバラ園の撮影を楽しむ事はビデオ人生にとっての醍醐味です。美しい色彩をファインダー一杯に収めて撮影ボタンを押す。TV 画面に再現される自分の撮ったカットを夢みながら…、増池さんも上手になられました。カットは申し分ありません、欲を言えば編集のときバラのアップの山場を（アップの花の連続）２～３箇所もってくることと、それを盛り上げるために見ている人のアップカットをはさみこむことではないでしょうか、周りの情景を少し減らしてでもバラと人でバラ園の雰囲気を盛り上げるとすばらしいものになることは間違いありません。

2．なかへち大川の秋まつり
10分　岡本至弘さん

今年の和歌山県民文化祭、中辺路での映像祭は岡本さんが大活躍でした。熊野古道や清姫を題材に３本出品されています。国の文化遺産に指定されて地元も沸いていることを感じます。この作品は地元の秋まつりを撮られた新入会員さんのテープを岡本さんが編集してあげたものだそうです。小さい村のこじんまりした秋まつり、珍しい情景でした。ベテランの岡本さんにとっては、欲しいカットがなく、いらいらされながらの編集とは思います。でも四人で担ぐ神輿、女の神主さん、村を練り歩く女性を含めた若衆、その後を御幣を積んだりした軽四がつづくカットなどはなかなか興味をそそられました。

3．飛べ飛べトンボ
10分05秒　上総修一郎さん

いろいろなトンボが出てきて郷愁を感じます。戦前多くの男の子が体験したようにブリ（糸の両端に錘をつけてトンボを引っ

掛ける）に熱中していた姿が頭をよぎりました。
（そうかこの体験は昭和一桁かそれ以前でないとわからないことかもしれません、自分の年を考えないとだめですね）それにしても上総さんはよく撮られています。実験室の産卵状態など設備と時間がどれだけかかったでしょう、種類も豊富で共食いの場面もしっかりお撮りなっています。８mmの時代からの映像だとお聞きしています。昔は都会にも空き地があってよくお目にかかったトンボ、今では公園でも見る機会が少なく、人里離れたところに行かないと見れなくなりました。学術的知識を得られ、その上古きよき時代をしのばれるすばらしい作品でした。

４．伊賀上野天神秋祭

8分45秒　　奥　宏さん

さすが関西三大祭り、無形重要文化財に指定されただけのことはあります。奥さんも腕を上げられて大事なカットはくまなく抑えられています。藤堂高虎の時代から伝えられたという悪病退散を願う悪鬼の面もアップで捉えてあり眼をみはります。とりわけひょろつき鬼の動作はこの祭りの一番の呼び物でしょう。この所作は年季だけでなく忍者の DNA も関係しているかも、祭りという非日常の世界に情熱をかけていた地方の人々の思いがひょろ付き鬼に凝縮しているように思います。泣き叫んでいた子供たちが成長して鬼を演じることになる、この繰り返しが祭りの文化かもしれません。

５．四季

3分20秒　　安居利次さん

ヴィヴァルディ四季の著作権フリーの CD がありました。春夏秋冬をつないでも３分余、なにか絵はないかとさがしますと著作権フリーのビデオ素材が頭に浮かびました。タイムラインに並べた波形にあわせ絵をはりつけました。音楽と絵のからみ、これから何回もやり直して訂正していきたいと思います。

６．NEPALカトマンズエリアにて

15分40秒　　黒田敏彦さん

ネパールのことが少しずつわかってきました。TV だけで知ったのではなくビデオクラブの例会で上映されるネパールの映像が私たちに親近感を感じさせます。じっくり撮られたすばらしい黒田さんの作品を見てまた一歩この国に入り込めたように思います。人懐っこい子供たち、まったく悪意のないカトマンズの人々、パック旅行では撮れない貴重なカットが適切な BGM に乗って展開していきます。仏陀をはじめヒンドゥー教の神々の石像、川の岸で行われる火葬の模様、あまりリアルでなくうまく編集しておられます。大作ですので全体を通して黒田さんのカトマンズについての思いが入っていれば、見ていて納得するとおもうのですが…、ベテランに向かってえらそうなこと言ってすみません。

７．飛騨古川祭物語

13分　　紙本　勝さん

さすが祭りの紙本さん、飛騨古川の３つの祭りを１本にうまくまとめられています。２話、３話はどこかで見たことがありますが１月の三寺参りは初めてです。祭りの故事来歴を簡単に説明していただくと折からの吹雪とあいまって見入ってしまいます。篝火と灯篭流し、こういうロケーションに出会うと寒さも吹っ飛んでファインダーの鬼になってしまうでしょう。三寺参りが大正時代には見合いの場だったなんてノスタルジック空想がかってに広がってしまいます。それにつづく第二話、起こし太鼓はあまりに有名です。もっとも子供歌舞伎の「橋弁慶」は何回見ても楽しいですが、…、第三話のきつね日祭り、きつねの嫁入りに、実際に結婚するカップルを組み込むとはおしゃれですね。有名な祭りを撮りながら人間の営みも絡ませて作品にしあげるところが紙本さんの凄いところです。

８．Oh！能deタンゴ

4分15秒　　山口さちよさん

新しいことをやろうと実験的に試みられるのは大賛成です。関さんのパロディ合唱に触発されたという触れ込みでしたが中身はまったくちがいました。薪能とタンゴは発想としてくっつきません、それをあえてタンゴにもっていく勇気を買いたいとおもいます。変化に富んだカットが薪能では少

ないので苦労のあとがよくわかります。変化は早回しのスピードの調節でリズムに合わせるとか、ＰＣの技術との兼ね合いのように思います。でも能とタンゴがいつの間にか融合していて違和感はあまりありませんでした。これからも新分野の挑戦に期待しています。

９．御寺泉湧寺とハイビジョンパラパラテスト　9分27秒　前田茂夫さん

ハイビジョンによる画像はやっぱりすばらしいです。デッキがないのでカメラを携えての映写です。タイトルのパラパラテストの意味がもうひとつわからなかったので前田さんに TEL して聞きました。ビクターのハイビジョンカメラは 30P なので急速なパーンや高速移動被写体を撮影すると、画面がパラパラしてだめだという批判が巷ではあるそうです。ソニーの HDR-FX1 は 60i ですからそのような心配はないし、マニア好みの素晴らしいカメラなのですが、編集ソフトも高いしＰＣ自体も相当グレードアップしないといけないので 100 万円仕事だそうです。そこで 20 万円以下で買えるビクターのカメラで工夫をして撮ったら、パラパラもそんなに気にならないということを実験して見せた映像です。前田さんの解説でやっとパラパラテストの意味を少し理解できたかなと思いました。ハイビジョンを撮ってみたいが、SONY 機は高価で編集の敷居も非常に高いので二の足を踏んでおられる方は、Victor 機を一度検討されたらいかがでしょうか、ということでした。

10. 秋彩（ワイド）　6分23秒　河合源七郎さん

きれいなカットです。タイトル通りです。ふと思いました。どのカットもビデオ素材として売れそうなんです。私が持っている素材集よりいいカットがたくさんありました。マイカーや遠いところはレンターカーで時間制限なしに撮りに行かれるとほんと素晴らしいものが撮れるんですね。今までから作品としても情緒豊かなものをお作りになっています。この素材を生かして感性豊かなもっといい作品をこれからも数多く作ってください。

11. 朝、室生路（ワイド）　6分20秒　森口吉正さん

朝暗いうちからマイカーで出かけられたのでしょう、室生川の川面から沸き立つ霧が見事に捉えられています。前述の河合さんといい森口さんといいこうゆう素晴らしいカットをお撮りになるにはそれ相当の苦労と努力の賜物だと思います。いつもの森口節がないのが少し寂しいですが全体としてタイトル通りの雰囲気がよく出ていました。ただ司会も言われていたことですが大野寺の標識の後、生垣を手入れしているカットは流れを阻害するようにおもいます。それと「丈六の…」歌はスーパーがないほうがよかったかな・・・と、スーパーがあることで歌の意味を理解しようとする論理感覚がこれまた流れを邪魔するように思いました。間違っていたらごめんなさい。

12. 秋の公園（ワイド）　3分40秒　江村一郎さん

平凡な天王寺公園の秋の表情です。しかしカットの撮り方と繋ぎ方によって江村さんの世界が展開されます。作者名を消しても多分江村さんが撮ったとしばらく見ていると誰もが気づくでしょう。それは自然のカットではなしに駆け回る子供たちの表情のとらえかたなのでしょうか、いや人以外のカットにも江村さんのカメラを通すとなにか温かみがあらわれてくるような気がします。平凡な天王寺公園の秋の午後のひと時を切り取った映像ですが心に残るものを感じました。

13. 霧の氷ノ山（ワイド）　6分50秒　進藤信男さん

山の名は「ひょうのせん」と発音するそうです。兵庫県では一番高く中国地方まで拡大してもあの大山に次ぐ第二の山だそうです。台風 22 号と 23 号の間を縫って奥さんと登られたそうです。川の水量は多く流された橋も多かったとか、橋の修理のカットもなまなましくありました。水分をたっぷり含んだ霧雨だったとか　カメラで写しながらよく頂上まで登られたと感心しました。山が好きなのですね。ちょっと気になったのは川の音、カットが変わるごとに川音の大きさが変化します。それとナレとの

調節、いいカットを多くお撮りになりうまくまとめられているのですから、この方面にも少し気をつけていただいたらいい作品ができあがると思います。それから最後のスーパーはもう少しゆっくりと。完全に読めませんでした。細かいこと言ってごめんなさい。

14. 北の汀（ワイド）

7分30秒　　関　剛さん

さすが関さんです。タイトル通り、北の汀の情景を独特のタッチで描かれていました。これは誰もまねのできない分野です。音の扱いが毎度の事ながらすばらしい。現地音と効果音が自然にミックスされているので区別はよほどその気で聞き分けないとわかりません。効果音はそうあるべきなのでしょう。（実は後でヒューヒューと言う風の音が効果音というのを司会とのやり取りで知ったしだいです。）はじめは比較的穏やかな北の汀も東北電力が風力発電機を設置するほどの強風地帯、竜飛岬の階段を上がるとともに津軽三味線の音が激しくなり風が強くなって行く情景が演出されます。クロマキーで三味線の演者が北の海を背景に弾いている映像も自然です。細かい計算の積み重ね、こうゆう風にはなかなかできません。脱帽です。

15. 淡路の瓦

10分　　有村　博さん

淡路の瓦製作の様子を吉岡さん等と撮りに行かれたそうです。近代化された平瓦工場システムにいまさらながら驚きました。都会の瓦葺きを職業にしている人たちが震災以来転業を余儀なくされている話をよく耳にしますが淡路の瓦をみていますと需要はまだまだあるんだと安心しました。でも地元の人にインタビューされているのを聞きますといぶし瓦とか鬼瓦とか特殊のものにやわりシフトしてゆく傾向があるようで、どの業界も大変だと思いました。話の中で需要の鬼瓦も既製品を売るのではなくその地域に合致したものを客と話合いながら作るのだということを聞いて、道を歩いているとき鬼瓦を見るとつい興味を持って近所の鬼瓦と見比べてしまいます。アマチュアもまた鬼瓦つくりに挑戦しているのですね。どの分野でもプロのまねをしたがるものだと有村さんの映像を見て思いました。

16. クライストチャーチ後編

6分25秒　　那須典彦さん

今２月に前編を見せてもらいました。そのときもプロのナレつきでした。クライストチャーチとはニュージランド南島の最大の町だそうです。「イギリス以外でもっともイギリス的」な町で公園、庭園の中に町があるという感じだそうです。今回は個人の庭園を市が買いとったり、ガーデンコンテストで１位になった庭を見せてもらったり別の邸宅では奥さんが絵付けされたというお皿などをナレつきで画かれています。がっちりと三脚を固定した安定した画像に名解説だとこちらも安心して見せてもらいました。海外の美しい那須さんの映像には解説ナレをつけていただくと価値が 10 倍増します。ありがとうございました。

17. フライト

7分　　今井羨美さん

気球が空を飛んでいる映像はよく見ますが、どうして空気を入れ舞い上がる準備をするのか今井さんの映像を見てよくわかりました。早朝からカメラをもって克明に記録していただいています。強力扇風機とバーナーの熱をうまく使って気球の中の空気の温度を周囲よりも上げて軽くするのですね。あたり前のことなのですが空気の比重を温度で下げる、空気って普通は重さを感じません、それが大きな体積になると人間を３～４人持ち上げる浮力が生じるんですね。後はバーナーの点火時間だけで操縦する。ふぅーん、変なところで感心したり納得したり、改めて勉強になりました。

18. ゴビサバクを行く

8分30秒　　山本正夢さん

いつもいつも世界の秘境を見せていただきありがとうございます。今回はゴビ砂漠、スーパーにあった「本当のサバクは 10% あとの 90 %はサバンナ」そうなんですか、認識を新たにしました。放牧民の生活はすごいですね、しるしをつけるのに朱はいいですが耳や尻尾をはさみでちょん切るのにはびっくりしました。出来れば解説のナレ

がほしいです。あの車にどんな人と一緒に乗っておられたのかとか、オーバーヒートした車はどうして直ったのかとか見ていて疑問が一杯でした。映像の撮り方も編集の仕方も上手です。これからもっともっとみんなが撮れない秘境のビデオを楽しみに期待しています。

16. 初秋模様

6分16秒　　金子博泰さん

コスモスは秋の象徴です。咲き乱れるコスモスを角度を変えてきれいに撮られています。それをゆっくりしたＢＧＭにあわせてつないでおられます。初秋模様のタイトル通りの表現でいいのですが、全体の 3/4 をコスモスだけで画くのはちょっとしんどいように思いました。ススキもあり色づいた葉っぱもあるのですから、少し混ぜることで絵づらに変化をつけられたらどうでしょう。それからラストの緑の葉陰から日の光が差し込むカットはタイトルからそぐわないように思うのですが…、どうでしょうか。

■フラッシュバック

～もうひとつの映像祭～　　文・岡本至弘

今年も我がＯＭＣにおいては、多くの作品が生まれ一年が暮れようとしている。会員諸氏の作品制作意欲には唯々感服のみである。秋には発表会が盛大に終了した。みごとな作品のラインナップで、選考委員さんの頭を相当悩ましたことだろう。

私は、紀南のビデオクラブにも入会させてもらっている。今年の映像祭は、田辺会場と中辺路会場の二か所で開催した。それぞれプログラムを変えて上映した。中辺路会場は、はじめてで今年は「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されたことで、登録記念と、町民の「生涯学習まつり２００４」協賛として教育委員会との共催で開催させてもらった。プログラムもこれにちなんだものを選考した。ローカルとあってビデオを大画面でみるというのが初めての方も多かった。

私も３作品を出品させてもらった中で、２０年前の作品「清姫まつり」をテレシネして出してみた。上映してみると、多くの関係者や知人が登場するたびに歓声の渦に包まれた。ワァー、キャー、場内は騒然となった。「あの人なくなったやんか」との声も。内容の「仮装行列」も手伝って大爆笑の映写会となった。力作を上映することも良いが、こんな映写会も楽しいものだ。観客は満足して帰っていった。

この前の大阪アマチュア映像祭の中でも「ああ我ら住吉ビデオクラブ」も笑いを誘う内容だった。プログラムの編成においては、ＮＨＫの「素人のど自慢大会」を思い出した。上手な歌の中にも。ユーモアあふれる方もおられると楽しい。たとえ鐘がひとつであっても満足するものだ。町の話題性や、滑稽なものなど、見にきてくれるお客さんが喜んでいただける映像祭を続けられたらと思う。ＯＭＣは、色々なジャンルの映像作家集団だ。今年も多彩な作品を見せていただいてありがとう。ＯＭＣの皆さん、来年も益々ご健勝にて作品づくりにご活躍されることを祈念してやみません。

■パラパラ感って、何でしょうか？

まずパラパラするということはどのような現象か考えてみましょう。映像を見た場合、高速の移動体被写体（例えば、高速の電車や自動車）の映像が流れるように見えなくて、映像一つ一つが連続したコマ撮り写真のように、パラパラと見える状態を云います。つまりギコチナイ映像といえましょう。

１．何故パラパラするのか？

①ビクター機には、ND がないために、晴天時には光量が多すぎ、露出過多になります。そこで、絞り込むと同時に、シャッターも基準の 1/60 ではなく 1/125 から 1/250 以上へと速度を上げます。高速度シャッターを切ると、１フレーム毎の画像はボケることなく精鋭度を保ったまま録画されます。この状態は人間の目には自然ではなく、逆に不自然に見えます。これを映像がパラパラする（パラパラ感）といっています。

２．パラパラ対策は？

ビクター機でどうすればよいかというと ND フィルターの常用とシャッター固定 1/60 です。これにより実用上まず問題はなかろうというのが今回のテストでした。

前田